

宮城県加美郡宮崎町切込西山磁器工房址

# 切 込

芹澤長介編



昭和 53 年

東北大学文学部考古学研究会  
考古学資料集  
別冊

宮城県加美郡宮崎町切込西山磁器工房址

# 切 込

芹澤長介編



昭和 53 年

東北大学文学部考古学研究会

考古学資料集

別冊

# 切込西山磁器工房址の発掘調査

芹沢長介

宮城県加美郡宮崎町切込には、江戸時代に多くの磁器を産出した窯址が5基のこされている。樹木の生い茂った山裾に並ぶこれらの窯址は、西山、中山、東山と呼ばれてきた。昭和50年4月、西山窯址に接する平担部が、開田のために破壊されるというので、宮城県教育委員会からの委嘱によって、東北大学文学部考古学研究室が調査をおこなった。発掘は4月17日から同月24日までの8日間にわたって実施されたが、そのさいに図らずも磁器製作工房址を確認することができた。

工房址は、西山窯址の南端部から西に約15メートル離れた地点において発見され、4間×3間の建物であったと推定された。第28回版の実測図が示すように、工房の長軸は南東から北西方向にあり、北西側には2間×2間のほぼ方形に敷物の圧痕がみとめられ、東南側の家屋の外側には、ほぼ円形の焼土が検出された。ロクロ用具の出土は南西に面した側にかたまっており、軸受や指貫の出土数からみて、3基もしくは4基のロクロが南西の窓に面して据えられていたと考えられる。これに反して素焼型の多くは工房の南東部周辺の溝から出土しているので、型おこし作業は東南部の土間でおこなわれたようである。北西部の敷物を敷いた部分でどういう仕事がおこなわれたかは不明だが、絵付がここでなされたと考えてよいかもしれない。また、東南の工房外側にみとめられた焼土は、鉄砲窯のような素焼窯の址とみるのがもっとも妥当であろう。なお、家屋内には炉址が認められないで、冬期の作業はここでは行われなかつたのかもしれない。床面に接して「西山用」銘の軸受が出土しているので、ここは西山窯付属の工房であったことが明らかであるし、また水滴型にみられる「山下」銘によって、丹波熊野郡生れの瀬戸山棟梁山下吉蔵がこの型の持主であったとみることができる。発見された資料からは「山下(吉蔵)」「長谷川和吉」「大衛良治」「鈴木音次郎」「新一」など、すくなくともこの工房に関係した5人の名前が明らかになっている。ロクロをまわした人間が3~4名、そして絵付や型おこしその他の仕事をする人間が3~4名とすれば、當時6~8名の職人が工房内で働いていたことになろう。

棟梁の山下吉蔵は寛政11(1799)年に生れ、元治2(1864)年9月11日に66才で没したことが墓碑銘によつて明らかなので、この工房で吉蔵が磁器を作っていたのはおそらくその後半生——天保から元治までということになる。工房の年代は、したがつて19世紀の中頃とみてよいだろう。

西山工房址から出土した資料は、ロクロ用具、窯道具、磁器、素焼、それに僅少の陶器破片であり、陶器はほとんど作られていないかったらしい。ロクロ用具には軸受(ツキアテ)、削台(仕上台)、指貫(エビサシ)などがあり、窯道具としてはさまざまな焼台(桔梗台、ツク桺その他)がある。匣鉢はこれまでまったく発見されていないので、切込では天秤積の窯詰めをおこなっていたと見られる。磁器には第1表に掲げたように多くの器種があり、珍しいものとしては三彩の破片がある。碗彌(土丸)、ボタン、蟹だらい、油壺、水滴なども作られていたが、大多数を占めるのは飯茶碗と皿——とくに茶漬茶碗と玉縁皿であった。

磁器の製作工程としては、成形にはロクロ、型おこし、粘土紐の巻上、そして手づくねの4方法が用いられていた。型おこしの場合には、まずロクロで成形した上で型に入れる場合もあり、巻上の場合にもロクロの上での巻上もあるので、これらは併用されていたと考えた方がよいだろう。型おこして成形された器種としては、隅切小皿、長皿、丸皿、輪花丸皿などが多く、土瓶の口や水滴は數がすくない。釉薬としては白地に呉須で文様を描いたものが大部分であり、その他には瑠璃と鉄釉とが用いられている。飛鉋の手法はしばしば用いられており、これはほぼ同時代の宮城県上ノ目窯(陶器)や同県萩ノ坂窯(磁器)でも多用されている。

発掘資料中には、明らかに他の窯の成品と思われる破片があり、ひとつは前記上ノ目窯の陶器破片、他のひと

つは山形県上ノ畠窯の磁器破片である。上ノ畠窯は切込の東北方約14キロメートルにあり、面白いことに上ノ畠址付近からは切込製磁器の破片が発見されている。切込窯と上ノ畠窯とは当時密接な関連をもっていたのであろう。上ノ畠窯は切込の西南方約17キロメートルにあり、天保2年に開窯されたという記録があるので、上ノ畠の成品が切込に持ちこまれていたとしても不思議ではない。また、西山工房址からは有田写しともいべき資料が出土しているが、搬入された「下り物」としての有田製品があるかどうかは明言できない。山形市の平清水窯は、江戸時代の末期から明治後半期にかけて、磁器の生産地として著名となったが、はじめは磁器の製作に成功しなかった。弘化4(1847)年平清水に隣接する岩波の伊藤藤十郎は、切込で磁器を焼いていた肥前の陶工伊助を招き、磁器窯を新たに造りようやく成功した、と伝えられている(真壁豊成編 1973)。切込の隅切小皿や玉祿皿とほとんど違わぬ破片が岩波窯址から出土している事実は、この間の事情を物語るものであろう。しかし皮肉なことには、切込窯は江戸時代の終末とほぼ同時に煙を絶ったが、逆に平清水窯は明治に入ってから隆盛の一途を辿ることになった。

宮城県下の諸遺跡の考古学的調査のさい、表土の中から切込焼の破片が発見されることがある。これまでの出土地を見ると、それらはすべて切込窯の東方から東北方にかけての地域に限られている。また、傳世品としての切込焼もやはり古川から岩手県南部の一ノ関周辺にかけて発見されることが多い。切込窯の製品はおそらく古川から一ノ関方面に販路をもっていたのであろう。しかし伊達文書九巻安政4年春地方御郡日記のなかに「16日(3月)門沢より雪を踏み山を越て切込の瀬戸山に行く。……瀬戸山嘗て二百余入住たるが、今は急れて職人のみ少し居る由。……太白の石少にて御用器の外焼す。余は皆雜瀬戸也。……」と記してあるように、良質の磁器を作るための石が少ないので、御用器のほかは焼かなかったという。仙台藩に献納するための良質の磁器というのは、おそらく第24回版に掲げた有田写しの精製品であろう。これらの多くは高台の内側に「太明成化年製」というような字が書きこまれており、有田製品と比較してもまったく見分けのつかないものである。しかし、これら有田写しの精製品が西山窯で焼かれていたことは間違いない。焼き損じや焼成中に接着した破片がみられるからである。最近おこなわれた仙台城の二ノ丸跡の調査のさい、磁器としては有田製品と思われるもの以外は出土しなかつたが、それらの中に切込の「御用器」が混っていたとしても、現在の私たちにはとうてい判別不可能である。したがって、「雑瀬戸」として的一般民需要の切込焼こそが、この図録の大部分を占めるものであり、東北地方で生れた磁器としての地方色をつよくあらわしていると言ふことができよう。

oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo

発掘調査への参加者は次の通りであった。

阿部朝衛、藤原妃敏、後藤秀一、剣持みどり、永井美行、岡村道雄、大竹成夫、芹沢長介、渋谷孝雄、清水芳裕、辻秀人、渡辺伸行、柳田俊雄、吉岡恭平(以上東北大考古学研究室)。

藤沼邦彦、加藤道男、加藤貞子、丹羽茂、齊藤芳弘、佐々木茂楨、白鳥良一、高橋守克、田中則和(以上宮城县教育委員会)。

発掘終了後の資料整理には、阿部朝衛、藤原妃敏、永井美行、渋谷孝雄、清水芳裕、柳田俊雄があたり、実測図および整図の作製を渋谷孝雄、柳田俊雄、藤原妃敏の3名が、また写真の撮影およびその後の処理は芹沢長介がそれぞれ担当した。

西山工房址の発掘調査について、快く御許可下さった地主の榎野静氏御一家にたいして、まず感謝申しあげたい。また、この調査が実現するに至ったのは、ひとえに宮城県教育委員会当局および直接に折衝の任に当つて努力された佐々木茂楨のおかげであった。また、宮崎町教育委員会からも御配慮を賜った。調査担当者から深甚

の謝意を表するものである。また、工房址の構造や、出土資料の細部にわたって有益な御教示を賜った平清水の青竜窯・丹羽良知氏および齊藤勇太郎氏に厚く御礼申しあげたい。

最後に、切込西山磁器工房址の図録を発表するにあたって、かつて切込瀬戸山棟梁として、西山工房において縦横に腕をふるった陶工「山下吉蔵」に、私たちはこの一巻を捧げたいと思う。

## 文 献

- 大日本古文書 1913 家わけ第三 伊達家文書之九 3049 加藤直治 増田小一郎 郡村模様書上 200~238頁  
真壁豊成編(田中匡平加筆) 1973 平清水焼物の歴史 山形市史編纂資料 第32号 7~84頁  
芹沢長介 1976 切込焼の端と皿 東北考古学の諸問題 513~531頁  
菅原英伍 1940 切込焼 陶磁 第12卷2号 6~20頁

十六日	山下吉蔵
門澤ヨリ雪ヲ踏ミ山ヲ越ア切込ノ瀬戸山ニ行ク雪路ヲ埋メ見分ケンダ	山切込瀬戸
旅人夫ヲ尾糞内ナケリ浦戸山曾テ二百人餘入込タシムが今ハ愈レテ難	山切込瀬戸
人ノ少レ居ム由石ハ二里計男ヨリ密ヒ車ニシテ細末ス新ヒ松木ヲ	山切込瀬戸
遠カヨリ運送スベヨリ波是難費多キヨリ賣リ難キ由道九ツ	山切込瀬戸
アリ昨夜挽留セリトテ今日職人共休ミ居ム由大白ノ石少シノ御用器ノ	山切込瀬戸
外焼メ蘇ヘ皆織機戸毛筆窯一棲柴キ未メ度ラズ	山切込瀬戸
一七日物貰金十一月四日一清三月渡拂ノ由〇新宿アリ中新御藏ニ一年	山切込瀬戸
一二斗ヲ、納ム由宮崎邊ニ同様ノ由切込近邊天明以來ノ賣處多シ二	山切込瀬戸
百軒アリレザ今百五十軒ホトヨアラント云屋敷跡木立トナリトキ所マ	山切込瀬戸
アリ延地数丈ヤ難キ由ニ門澤逃ハ真田ニヘ便タシ家モ少シノ只二軒	山切込瀬戸
アリ山ノ	山切込瀬戸
一玄義移物貰金十一月四日一三月ニ至リ皆還	山切込瀬戸
一多々川村物貰金十一月ト當春ト渡レリ全休四百八十切渡ヘキ所去年	山切込瀬戸
一四百切渡リ夏ハ未メ秋マス勘定年ニ清メル當春ハ未メ清マズ二番村	山切込瀬戸
ハ八十貫ホトノ高テ八人領四十人ホトアリ川原寛地少キアリ起シ分ハ	山切込瀬戸
低起トナリ	山切込瀬戸

「大日本古文書 家わけ第一 伊達家文書 四年春北御都日記」(大正二年 東京帝国大学叢書叢刊発行)より

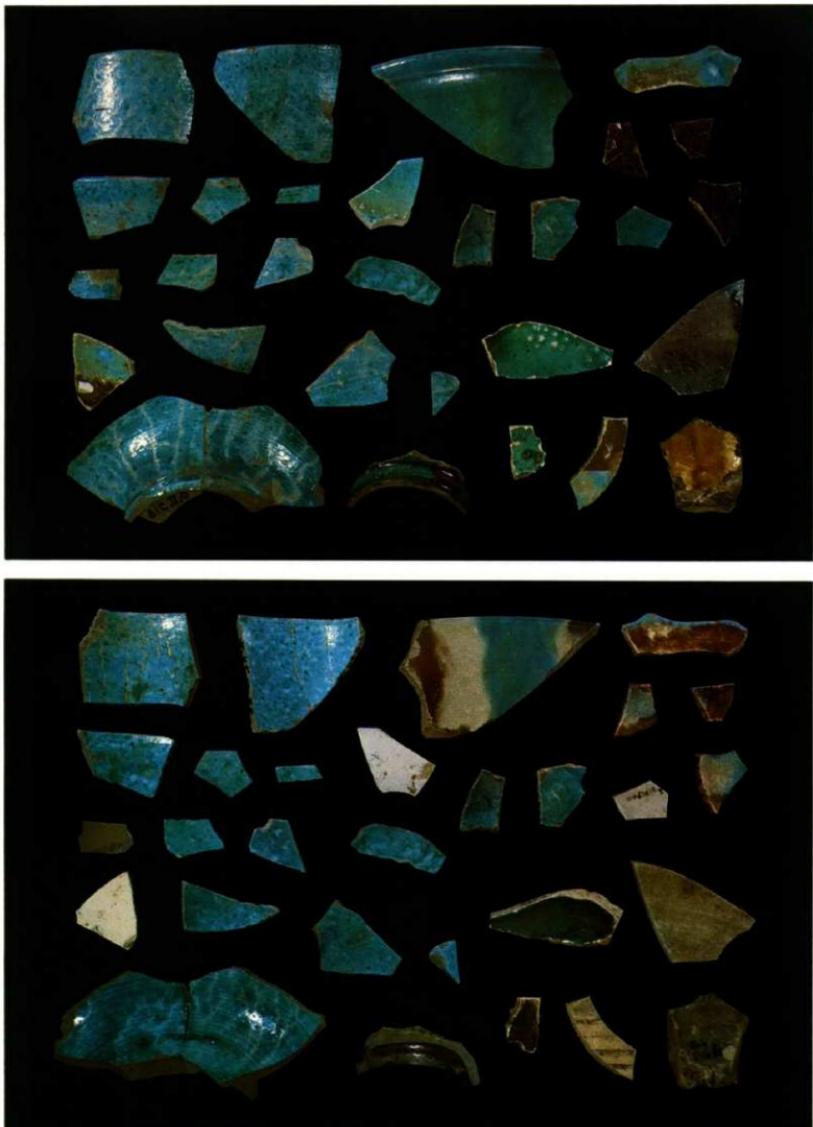
## 例　　言

- ここに集録した資料は、昭和50年4月17日から同月24日までの8日間に西山工房址およびその付近から発掘されたものであり、すべて東北大学文学部考古学研究室に保管されている。
- 発掘された資料は、磁器と素焼の破片を主体とし、これに素焼型、ロクロ道具、窯道具および僅少の陶器破片をふくんでいる。
- 遺物の写真には実物大、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ の3種類があり、実測図の縮尺はすべて $\frac{1}{3}$ に統一されている。
- 遺物の出土地点については、付表の出土区と各図版の発掘区とを対照して載きたい。
- 窯道具については、トチン、キキョウ台、ハマ、ツク棒などの呼称を避けて、すべて焼台として表現した。

## 図 版 目 次

第1 図版	工房址およびその付近から出土した磁器三彩	1
第2 図版	切込窯址の遺景と西山工房址の発掘	2
第3 図版	切込西山工房址	3
第4 図版	工房周辺の溝からの遺物出土状況	4
第5 図版	工房床面の礎石	5
第6 図版	工房址より出土したロクロ用具	6
第7 図版	工房址より出土した「西山用」軸受	7
第8 図版	工房址およびその周辺より出土した素焼型	8
第9 図版	工房址およびその周辺より出土した水滴の素焼型と水滴破片	9
第10 図版	工房址および周辺の溝より出土した素焼型各種	10
第11 図版	工房址および周辺の溝より出土した素焼型各種と焼台	11
第12 図版	工房址および周辺の溝より出土した戸車の素焼型と製品	12
第13 図版	工房址およびその付近より出土した砲弾（土丸）	13
第14 図版	工房址およびその付近より出土した窯道具各種	14
第15 図版	工房址およびその付近より出土した型おこしの手垣皿	15
第16 図版	工房址およびその付近より出土した型おこしの皿各種	16
第17 図版	工房址およびその付近より出土した型おこしの丸皿各種	17
第18 図版	工房址およびその付近より出土した板茶碗各種	18
第19 図版	工房址およびその付近より出土した磁器各種	19
第20 図版	工房址およびその付近より出土した鉢と皿各種	20
第21 図版	工房址およびその付近より出土した利多各種	21
第22 図版	工房址およびその付近より出土した磁器各種	22
第23 図版	工房址およびその付近より出土した磁器各種	23
第24 図版	工房址およびその付近より出土した磁器破片	24
第25 図版	工房址付近より出土した摺鉢破片	25
第26 図版	切込窯址の位置	26
第27 図版	切込西山磁器工房址付近実測図	27
第28 図版	切込西山工房址実測図	28
第29 図版	工房址より出土したロクロ用具および砲弾実測図	29
第30 図版	工房址およびその付近出土の素焼型と窯道具実測図	30
第31 図版	工房址およびその付近より出土した板茶碗実測図	31
第32 図版	工房址およびその付近より出土した板茶碗実測図	32
第33 図版	工房址およびその付近より出土した茶碗類実測図	33
第34 図版	工房址より出土した筍文玉縁皿実測図	34
第35 図版	工房址より出土した筍文玉縁皿実測図	35
第36 図版	工房址より出土した筍文玉縁皿実測図	36
第37 図版	工房址およびその付近より出土した皿類各種実測図	37
第38 図版	工房址およびその付近より出土した土瓶その他実測図	38
第39 図版	工房址およびその付近より出土した蓋各種実測図	39
第40 図版	工房址より出土した浅鉢・香炉・利多実測図	40
第41 図版	工房址より出土した火鉢実測図	41
第42 図版	工房址およびその付近より出土した三彩と摺鉢実測図	42
付表1	白磁および呉須文様の磁器	43
付表2	鉄軸、珊瑚、三彩の磁器および窯道具、素焼型	44
付表3	素焼	45

第1図版 切込西山工房址およびその付近より出土した三彩磁器破片



切込三彩は組器として作られ、色彩にはトルコブルー、白、茄子紫の三色が配合されているが、まれには黄色も発見される。  
器形には壺形、鉢形、甕形、碗形などがあるらしいが、詳細はなお不明である。

SCALE 1 : 0.7

第2図版 切込窯址の遠景と西山工房址



第3図版 切込西山工房址



工房址の全景



敷物様の圧痕のみえる工房床面

第4図版 工房周辺の溝からの遺物出土状況



素焼型と磁器破片の出土



素焼型と磁器破片の出土

第5 図版 工房床面の礫石



窯道具を利用した礫石



礫 石

第6図版 工房址より出土したロクロ用具



1.白磁指貫、2.松葉お多福文指貫、3.瑠璃指貫、4.鉄軸指貫、5.「此主大衛良治」銘の白磁軸受、  
6・7.白磁軸受、8.「長谷川持用 九月二八日」銘の削台(仕上台)

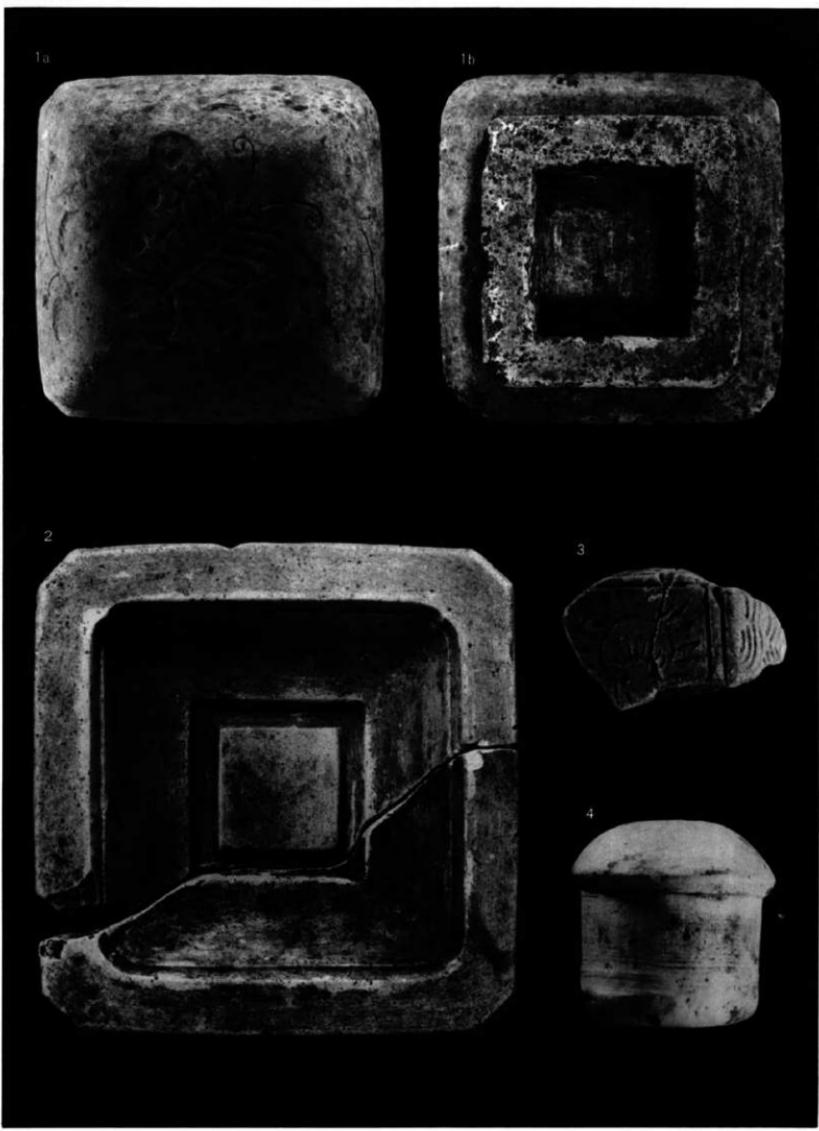
SCALE 1:1

第7図版 工房址より出土した「西山用」の軸受



SCALE 1 : 1

第8図版 工房址およびその周辺より出土した素焼型



1. 胡蝶文手塙皿の男型, 2. 手塙皿の女型, 3. ふくら雀文手塙皿の男型, 4. 紅皿の男型

SCALE 1:1

第9図版 工房址およびその周辺より出土した水滴の素焼型と水滴破片



1.「山下」(吉藏)銘のある唐獅子文水滴の素焼型、2.唐獅子文水滴の素焼型  
3.唐獅子文水滴の半成品破片、4.瓢箪形水滴の破片

SCALE 1 : 1

第10図版 工房址および周辺の溝より出土した素焼型各種



1.小型丸皿の型, 2.輪花皿の型, 3.土瓶の口の型, 4.5.器種不明の型

SCALE 1 : 1

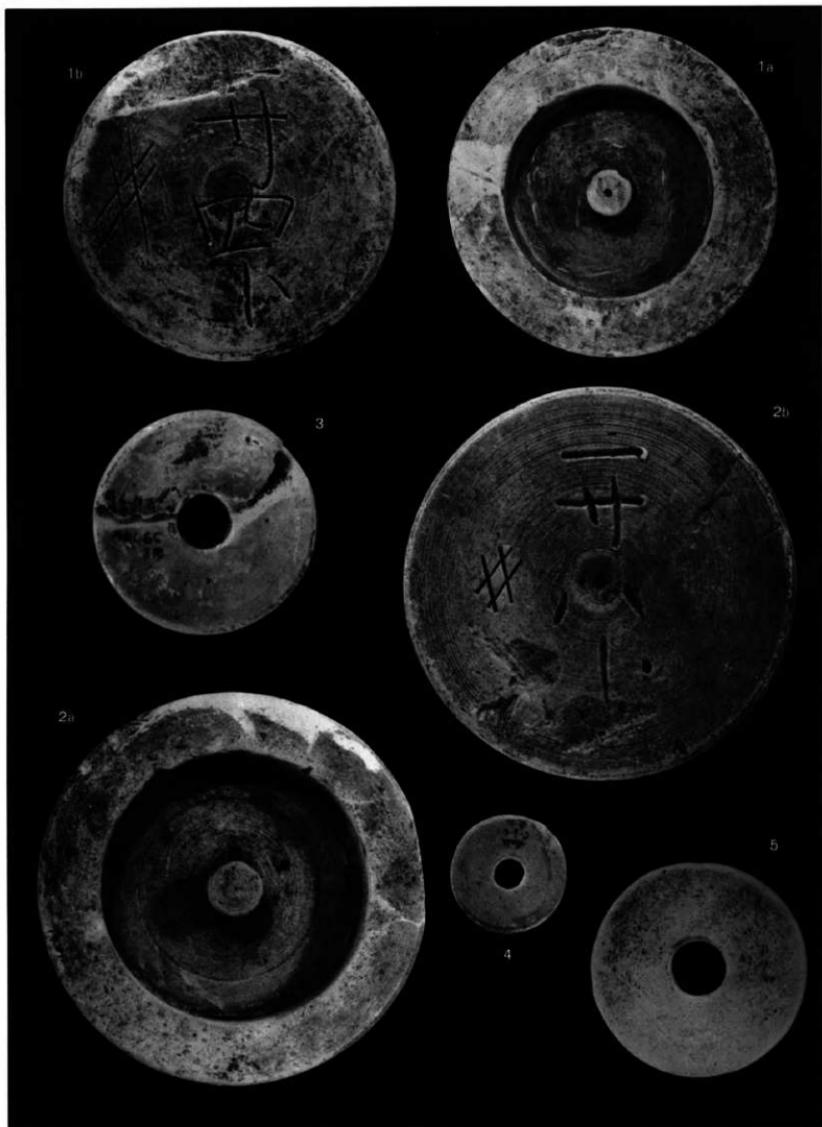
第11図版 工房址および周辺の溝より出土した素焼型各種と焼台



1. 長皿の男型, 2~4. 焼台の型, 5. 丸皿の型, 6~8. 焼台

SCALE 1 : 1

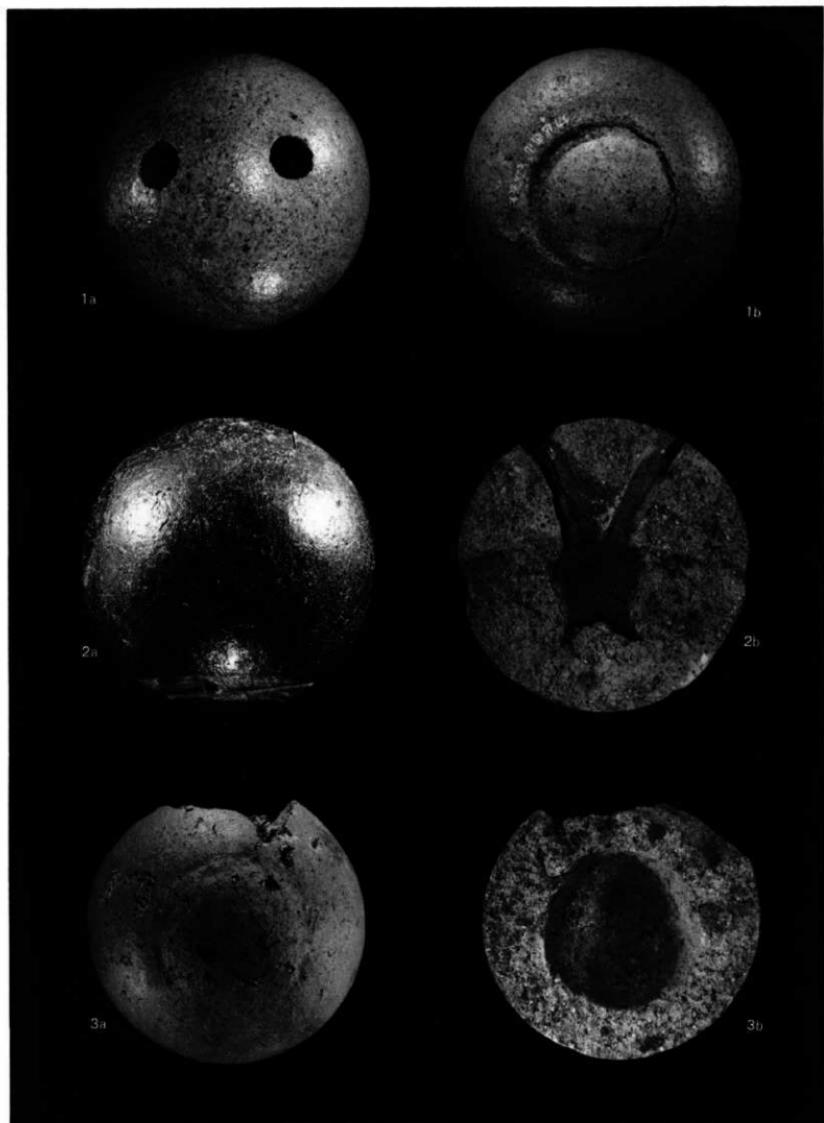
第12図版 工房址および周辺の溝より出土した戸車の素焼型と製品



1. 1寸4分の戸車の型, 2. 1寸8分の戸車の型, 3~5. 戸車

SCALE 1:1

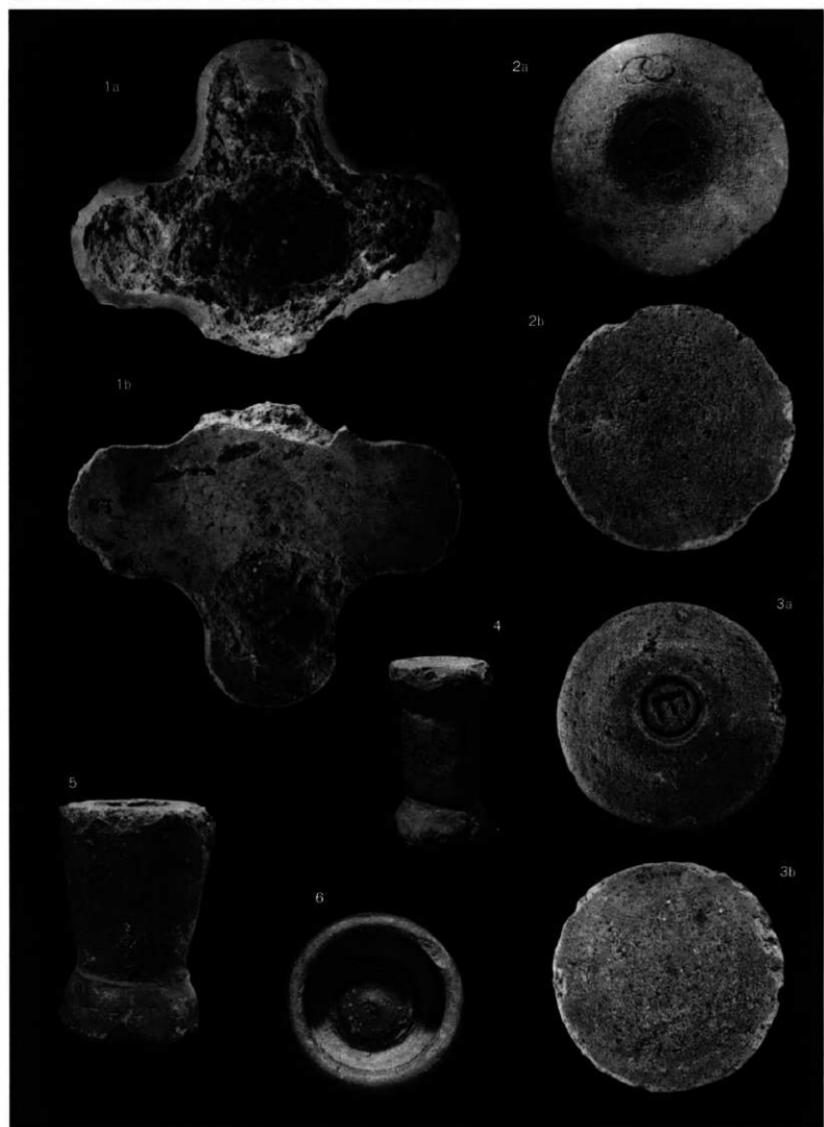
第13図版 工房址およびその付近より出土した砲弾(土丸)



1.3. 白軸の砲弾, 2. 鉄軸の砲弾

SCALE 1 : 2

第14図版 工房址およびその付近より出土した窯道具各種



1. 十字形焼台, 2.3. 裁頂円錐形の焼台, 4.5. 棒状焼台, 6. 駆弾用の焼台

SCALE 1 : 2

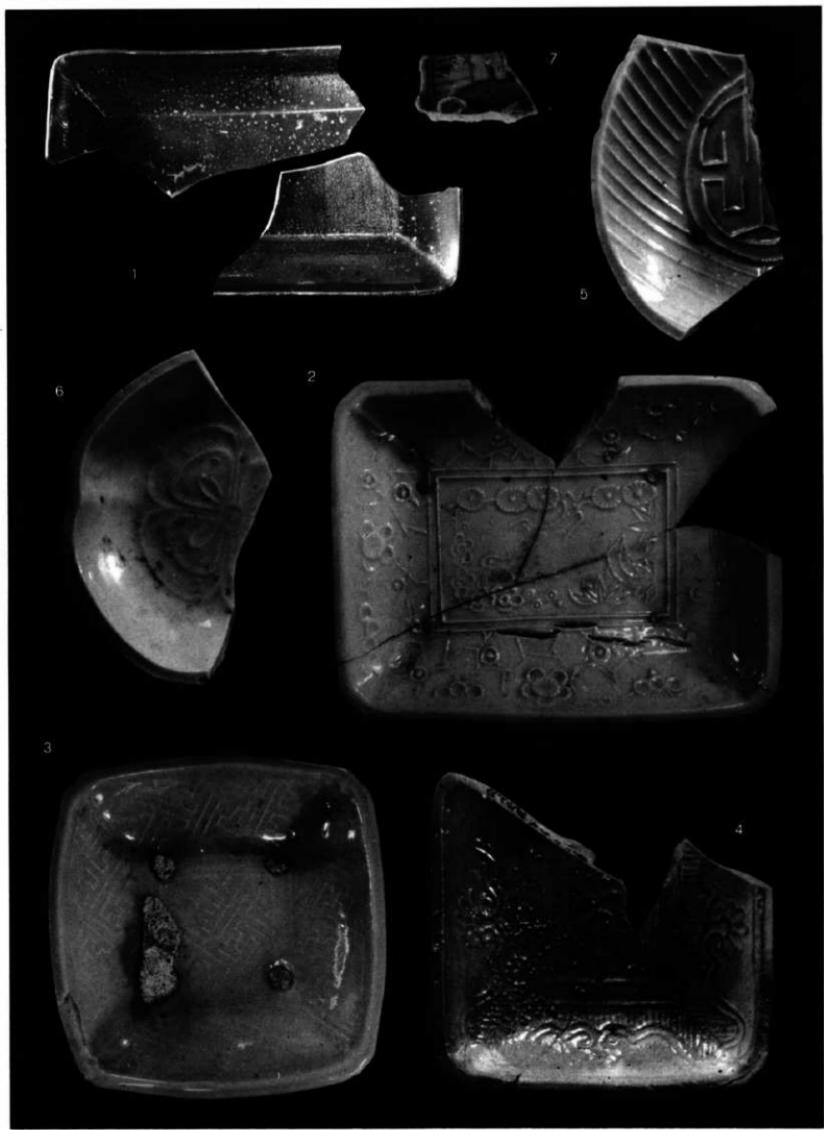
第15図版 工房址およびその付近より出土した型おこしの手塙皿



1.「西山」の文字入り(素焼), 2. 桜花文, 3. 桔梗文(裏面に印あり)

SCALE 1 : 1

第16図版 工房址およびその付近より出土した型おこしの皿各種



SCALE 1:2(1), 1:1(2~7)

1. 鉄釉長皿, 2. 松竹梅文小形長皿, 3.4. 手塙皿, 5. 「仙山」の文字入り小形丸皿, 6. 木瓜文の小形丸皿,  
7. 手塙皿破片 (この1片は山形県尾花沢市上ノ畠焼と考えられる。)

第17図版 工房址およびその付近より出土した型おこしの丸皿各種



1. 笹文丸皿、2. 菊形白磁丸皿、3. 輪花白磁丸皿

SCALE 2 : 3

第18図版 工房址およびその付近より出土した飯茶碗各種



1. 箕に縞蟻文, 2.3. 縦縞に縞蟻文, 4. 紅縁白磁(半焼成),  
5.6. 白磁(半焼成), 7~9. 山水文

SCALE 2 : 3

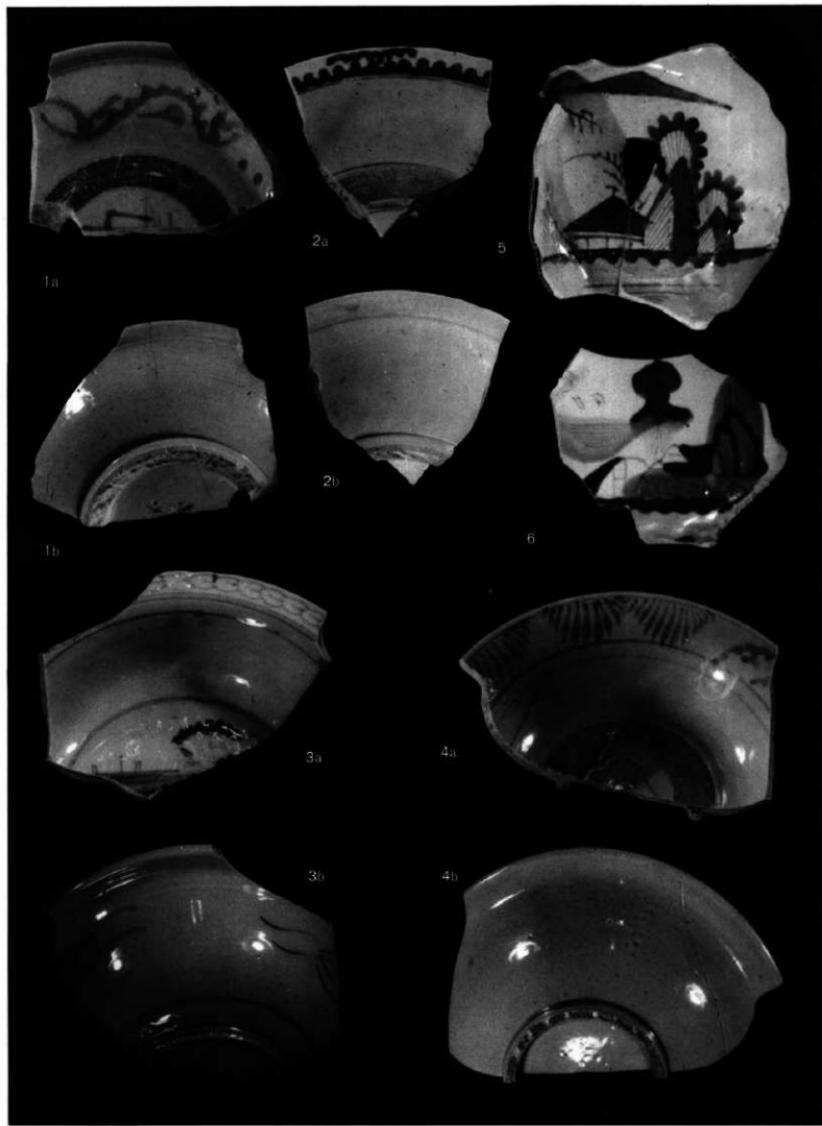
第19図版 工房址およびその付近より出土した各種磁器



1.「両替店所」の丸小皿。2.「万延二歳」の年号入りの飯碗。3.「柳□□」の湯呑、反対側には「分」の記号あり。  
4.5.手づくねの茶碗断片。6.「音次郎」名入り香合の蓋。7.絵画のある火入破片

SCALE 1 : 1

第20図版 工房址およびその付近より出土した鉢と皿各種



1~4. 浅鉢, 5. 山水文の紅縁輪花皿破片, 6. 同破片

SCALE 1:2

第21図版 工房址およびその付近より出土した徳利各種



SCALE 1 : 2, 但し10~12は1:1

1~3. 徳利, 4.5. らっきょう徳利破片, 6. 鉄釉人形徳利, 7. お神酒徳利(素焼), 8.9. 燐徳利,

10, 11. 鉄釉掛けわけの燐徳利破片(実大)

第22図版 工房址およびその付近より出土した磁器各種



1. 鉄釉の紅皿、2. 白磁の紅皿、3. 白磁の盃、4. 鉄釉の燈明皿、5. 白磁のボタン、  
6. 磁器硯破片、7. 大根おろし破片

SCALE 1:1

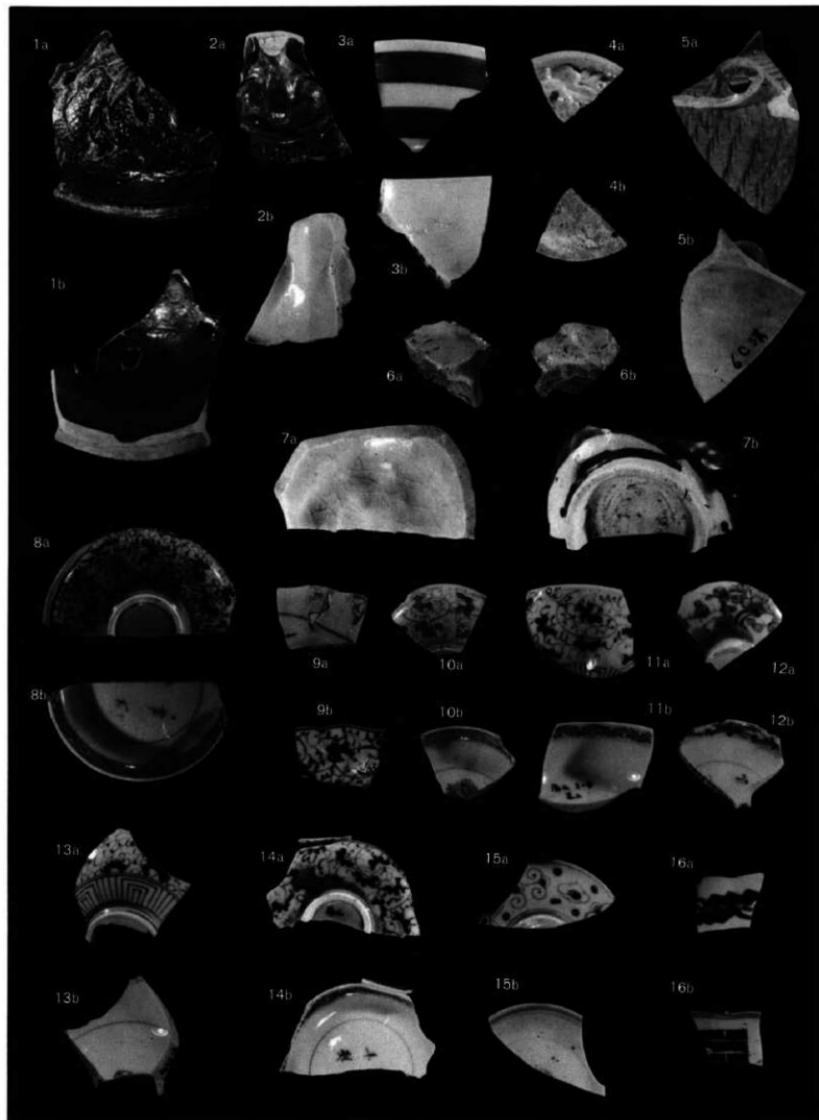
第23図版 工房址およびその付近より出土した磁器各種



1.2. 土瓶, 3. 鉄釉の小形深鉢, 4. 火鉢, 5. 鉄釉徳利, 6. 唐草文箱形磁器断片

SCALE 2 : 3(1,2), 1 : 2(3~6)

第24図版 工房址およびその付近より出土した磁器破片



1. 鉄釉香炉砂片, 2. 鉄釉狛犬の頭(?)の一部, 3. 鉄釉横縞文の湯呑, 4. 蓋破片, 5. いっちゃん掛け土瓶破片,  
6. 手づくね茶碗破片, 7. 鉄釉手づくね茶碗破片, 8. 唐草文茶碗の蓋, 9. 紅縁唐草文輪花皿破片, 10. 11. 13. 14.  
唐草文のある破片, 12. 梅枝文のある破片, 15. 花文のある蓋の破片, 16. 紅縁八瓣文のある皿破片

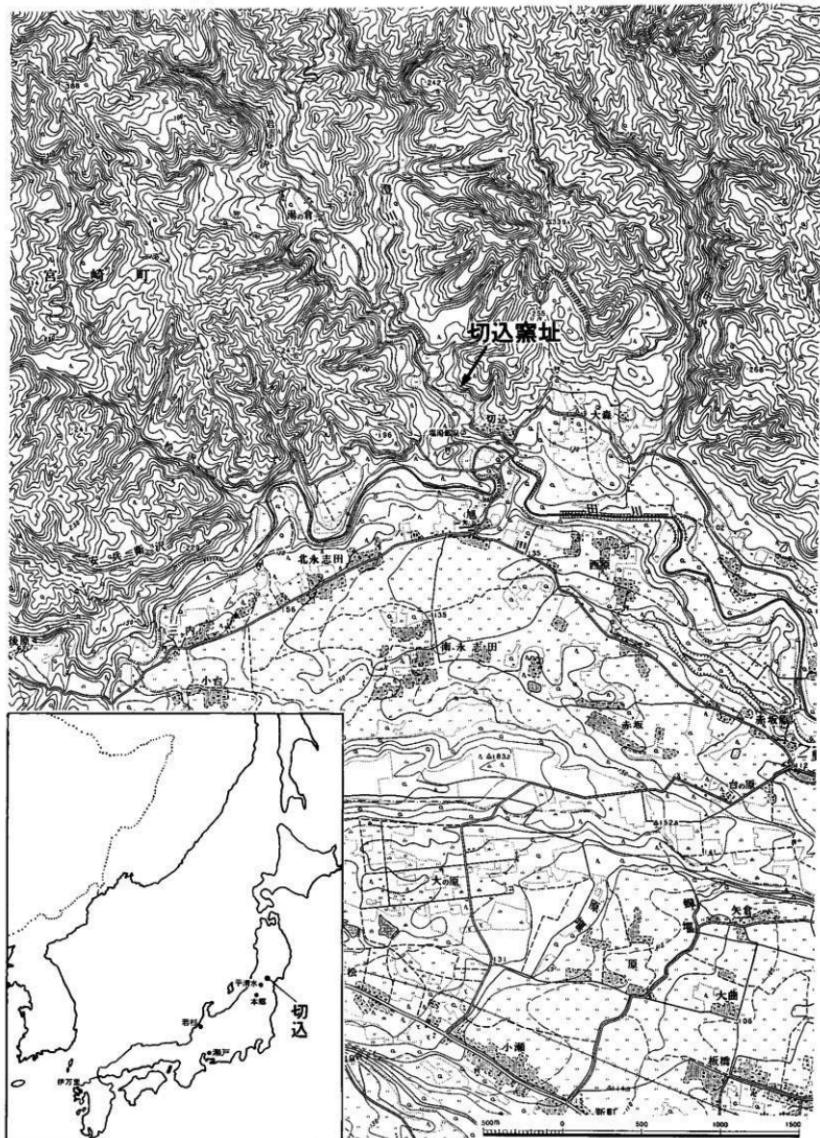
第25図版 工房址付近より出土した摺鉢破片



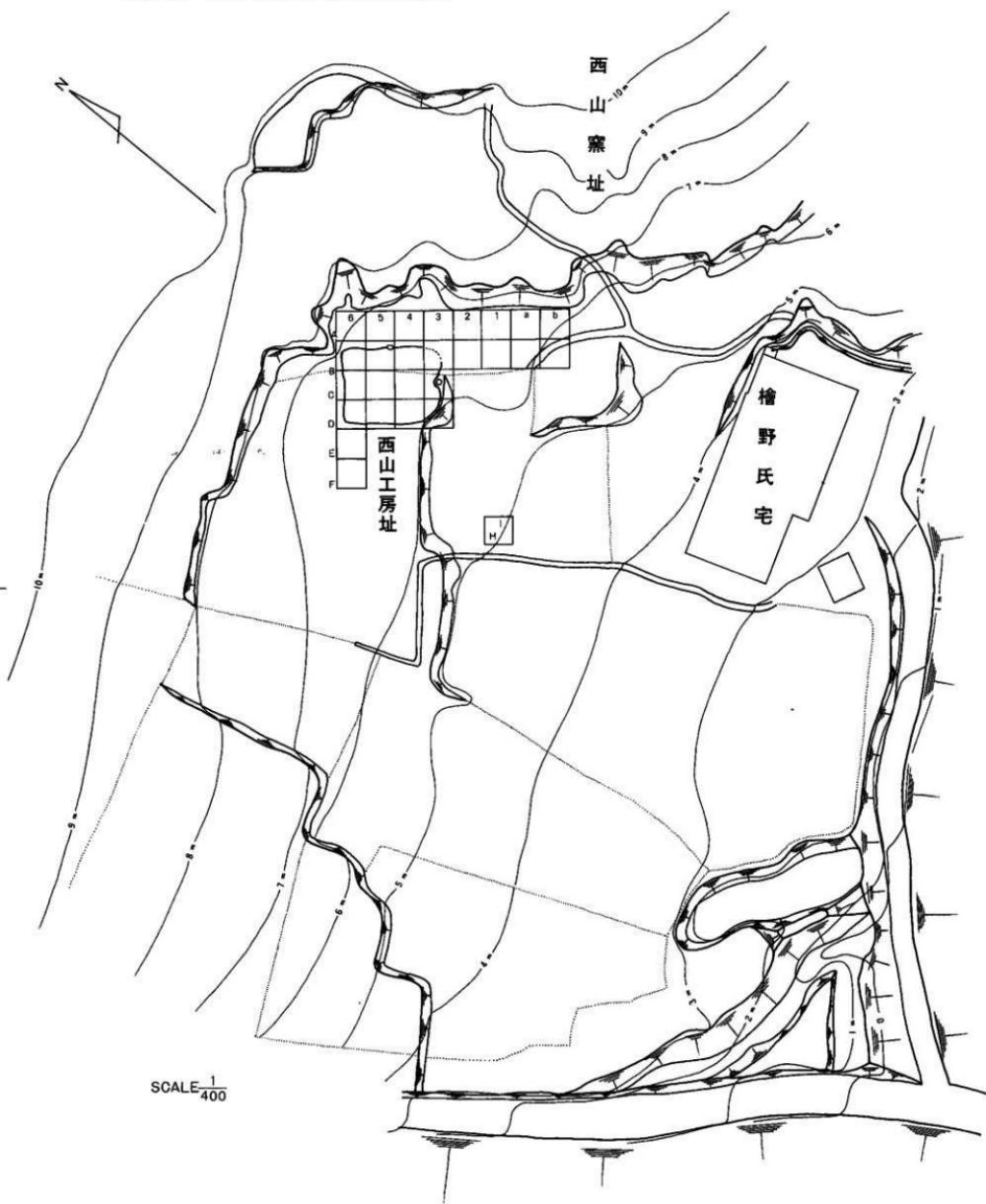
1.2. 白磁の摺鉢破片, 3. 鉄釉の磁器摺鉢破片, 4. 黒釉の磁器摺鉢破片, 5. 鉄釉の摺鉢破片(陶器)

SCALE 1 : 2

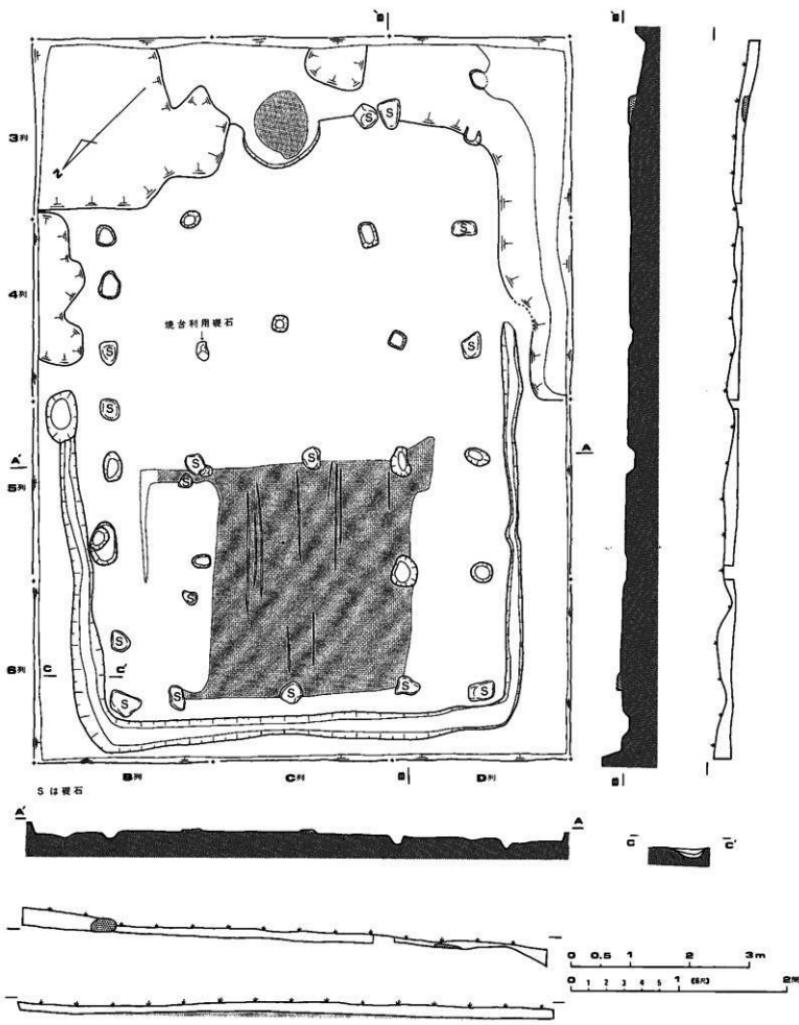
第26図版 切込窯址の位置



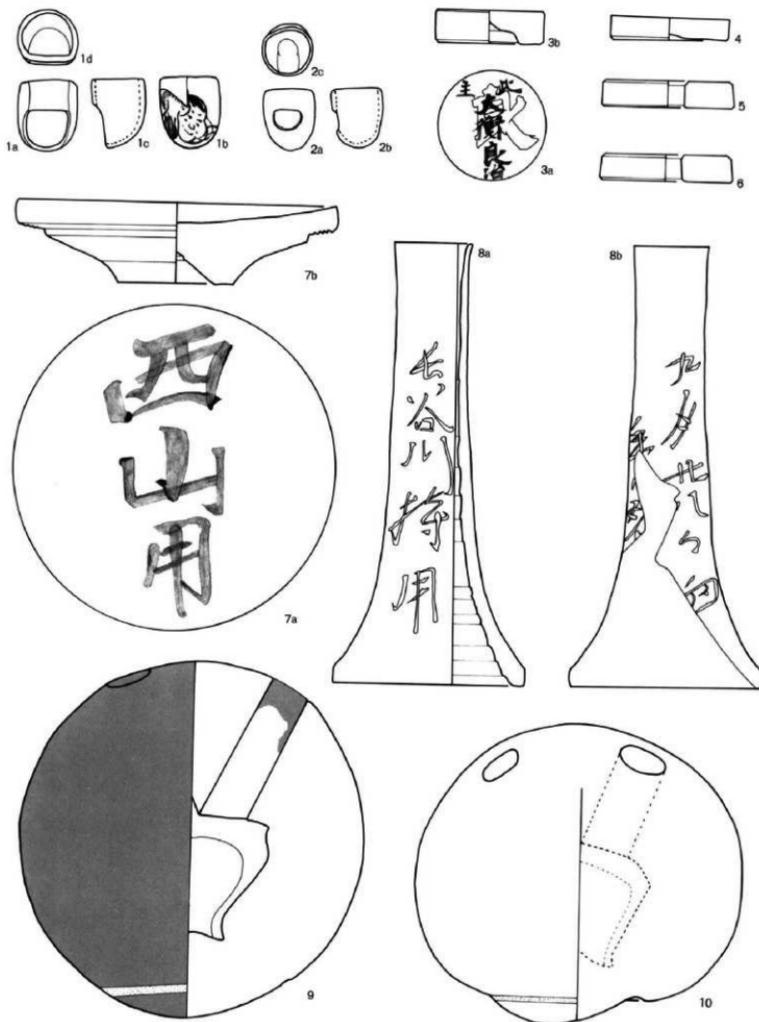
第27図版 切込西山磁器工房址付近実測図



第28図版 切込西山工房址実測図



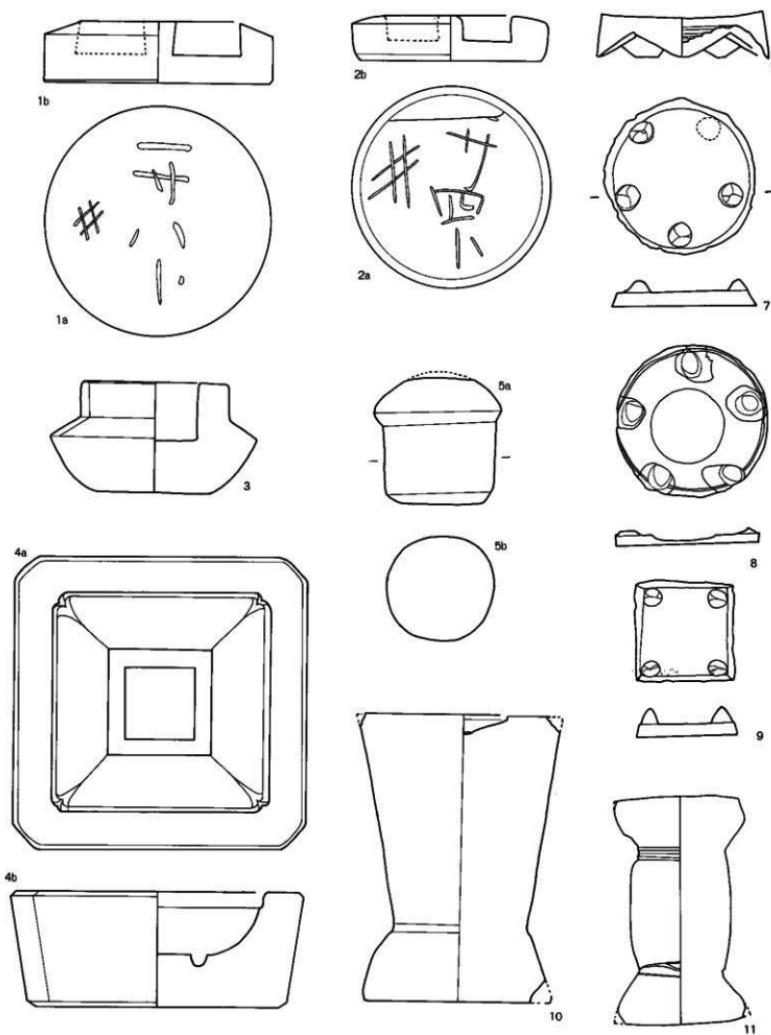
第29図版 工房址出土のロクロ用具 および砲弾実測図



- |              |            |              |        |
|--------------|------------|--------------|--------|
| 1. 松葉お多福指貫   | D-4区出土     | 6. 戸車        | A-6区出土 |
| 2. 白磁指貫      | O-4区床面直上出土 | 7. 軸受        | B-4区出土 |
| 3. 「大衛良治」銘軸受 | C-6区出土     | 8. 「長谷川持用」削台 | D-4区出土 |
| 4. 軸受        | C-6区床面直上出土 | 9. 鉄粉砲弾      | A-3区出土 |
| 5. 戸車        | D-6区出土     | 10. 白釉砲弾     | A-5区出土 |

SCALE 2 : 3

第30図版 工房址およびその付近出土の素焼型と窯道具実測図

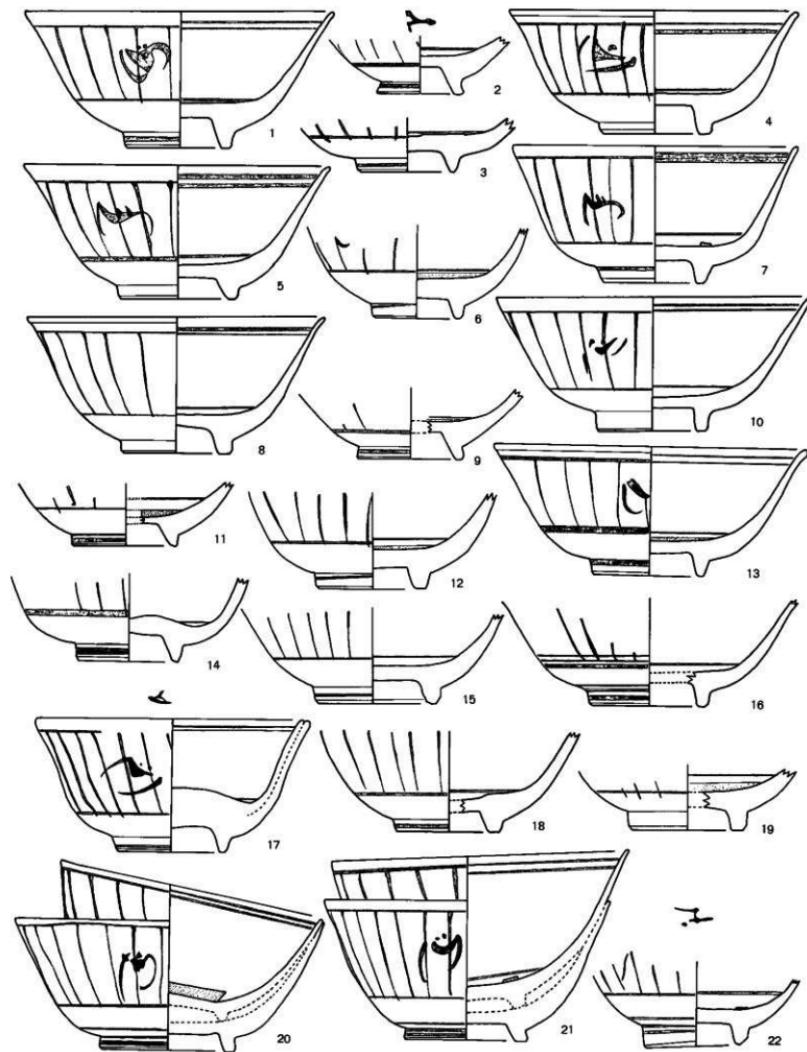


1. 戸車の1寸8分型 工房付近出土  
 2. 戸車の1寸4分型 工房付近出土  
 3. 胡蝶文手塙皿の男型 A-5区出土  
 4. 手塙皿の女型 B-3区出土  
 5. 紅皿の男型 C-6区出土  
 6. 焼台 B-1区出土

7. 焼台 D-3区出土  
 8. 焼台 B-1区出土  
 9. 焼台 工房付近出土  
 10. 焼台 D-4区出土  
 11. 焼台 D-4区出土

SCALE 2 : 3

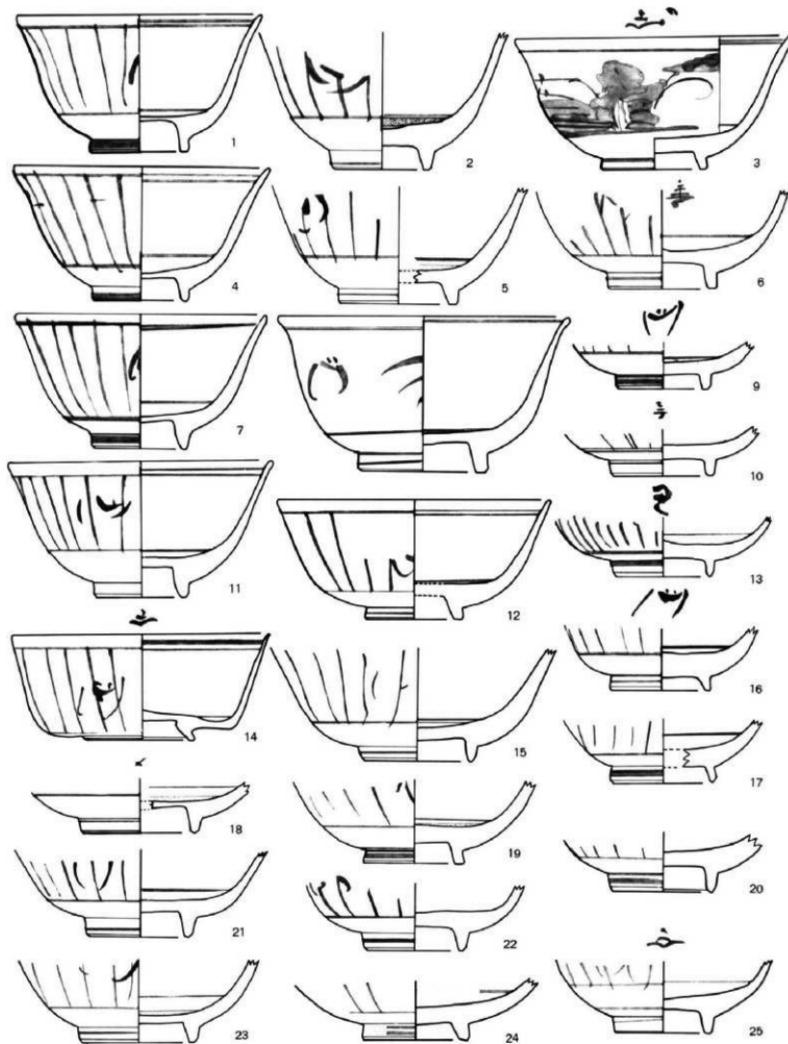
第31図版 工房址およびその付近より出土した飯茶碗実測図



SCALE 2:3

1. 縦縞に編織文の飯茶碗	D-4区出土	9. 縦縞に編織文の飯茶碗	工房付近出土	17. 縦縞に編織文の飯茶碗	A-6区出土
2. "	D-4区出土	10. "	D-4区出土	18. "	D-4区出土
3. "	B-6区出土	11. "	A-6区出土	19. "	B-6区出土
4. "	工房付近出土	12. "	A-6区出土	20. "	B-6区出土
5. "	B-6区出土	13. "	D-6区出土	21. "	工房付近出土
6. "	A-5区出土	14. "	A-6区出土	22. "	A-5区出土
7. "	D-4区出土	15. "	A-4区出土		
8. "	B-6区出土	16. "	D-4区出土		

第32図版 工房址およびその付近より出土した飯茶碗実測図



1. 縦線に蝙蝠文の飯茶碗

D-4区出土

2. " A-6区出土

A-6区出土

3. 山水文の飯茶碗 C-6区床面直上出土

C-6区出土

4. 縦線に蝙蝠文の飯茶碗 A-1区出土

A-1区出土

5. " A-6区出土

A-6区出土

6. " B-1区出土

B-1区出土

7. " D-4区出土

D-4区出土

8. 苗文に蝙蝠文の飯茶碗 工房付近出土

A-6区出土

9. 縦線に蝙蝠文の飯茶碗 A-6区出土

D-4区出土

A-5区出土

A-6区出土

B-6区出土

B-6区出土

C-6区出土

A-6区出土

D-4区出土

A-6区出土

10. 縦線に蝙蝠文の飯茶碗 工房付近出土

A-5区出土

A-6区出土

B-6区出土

B-6区出土

C-6区出土

A-6区出土

D-4区出土

A-6区出土

11. 縦線に蝙蝠文の飯茶碗 A-5区出土

B-1区出土

B-6区出土

D-6区出土

D-6区出土

D-6区出土

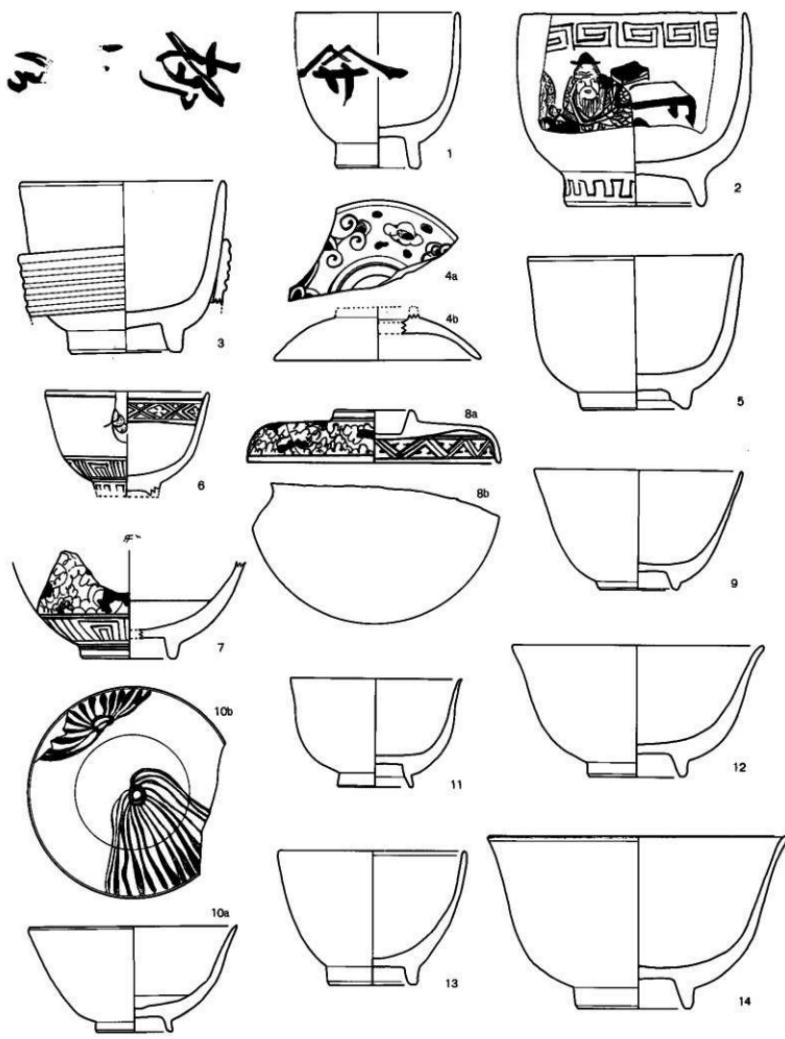
B-6区出土

B-6区出土

B-6区出土

SCALE 2:3

第33図版 工房址およびその付近より出土した茶碗類の実測図



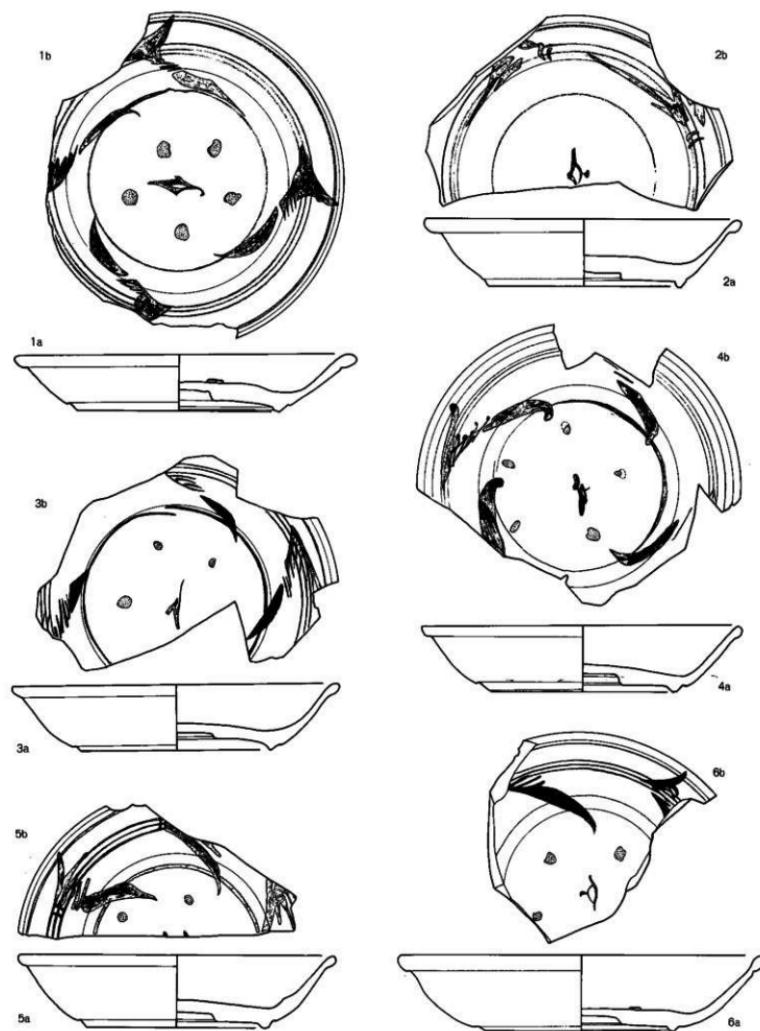
- 1.「柳」「今」印の湯呑茶碗 工房付近出土
- 2.人物画の茶碗 工房付近出土
- 3.瑠璃の湯呑茶碗 D-6区出土
- 4.花文のある茶碗の蓋 B-6区出土
- 5.瑠璃の湯呑茶碗 工房付近出土
- 6.湯呑茶碗 工房付近出土
- 7.飯茶碗 A-5区出土

- 8.唐草文の茶碗の蓋
- 9.小形飯茶碗
- 10.内面に文様のある湯呑み茶碗 A-5区出土
- 11.瑠璃の湯呑茶碗
- 12.白磁の飯茶碗
- 13.瑠璃の湯呑茶碗
- 14.紅縁の飯茶碗(無縁)

- A-5区出土
- D-4区出土
- A-5区出土
- B-6区出土
- A-6区出土
- A-5区出土
- A-5区出土

SCALE 2 : 3

第34図版 工房址より出土した笹文玉縁皿実測図



1. 笹文玉縁皿 D-6区出土  
 2. " A-6区出土  
 3. " A-6区出土
4. 笹文玉縁皿 A-6区出土  
 5. " A-5区出土  
 6. " A-6区出土

SCALE 2 : 3

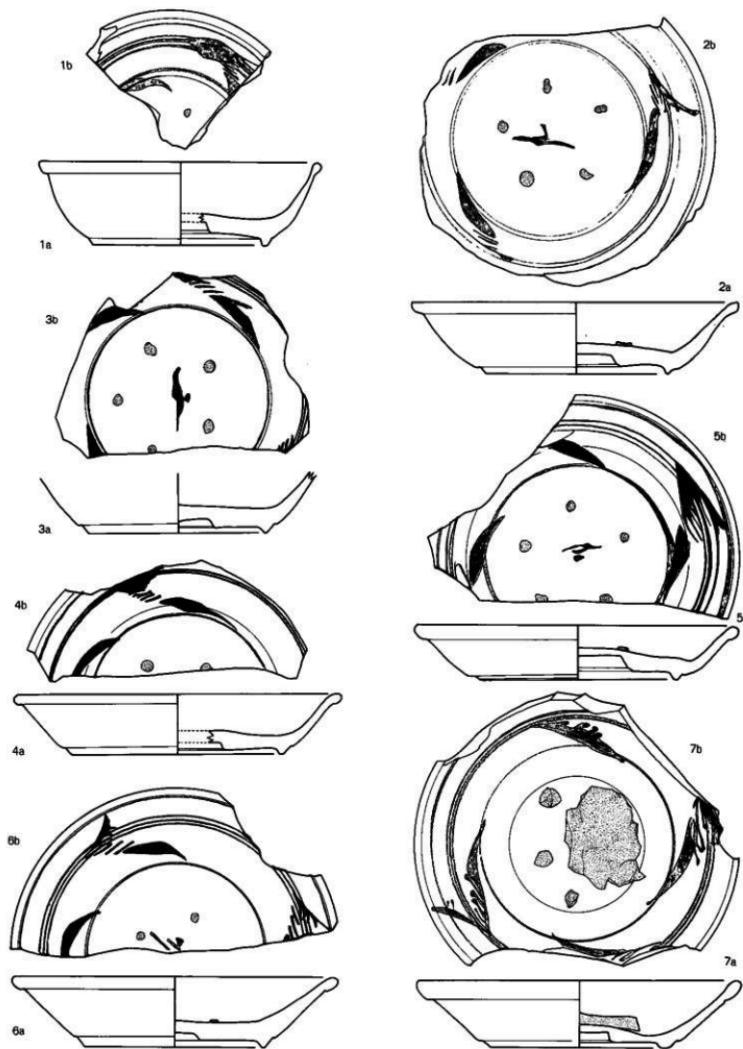
第35図版 工房址より出土した笹文玉縁皿実測図



1. 笹文玉縁皿 A-6区出土 4. 笹文玉縁皿 D-4区出土  
 2. " C-6区出土 5. " A-6区出土  
 3. " D-6区出土 6. " A-6区出土

SCALE 2 : 3

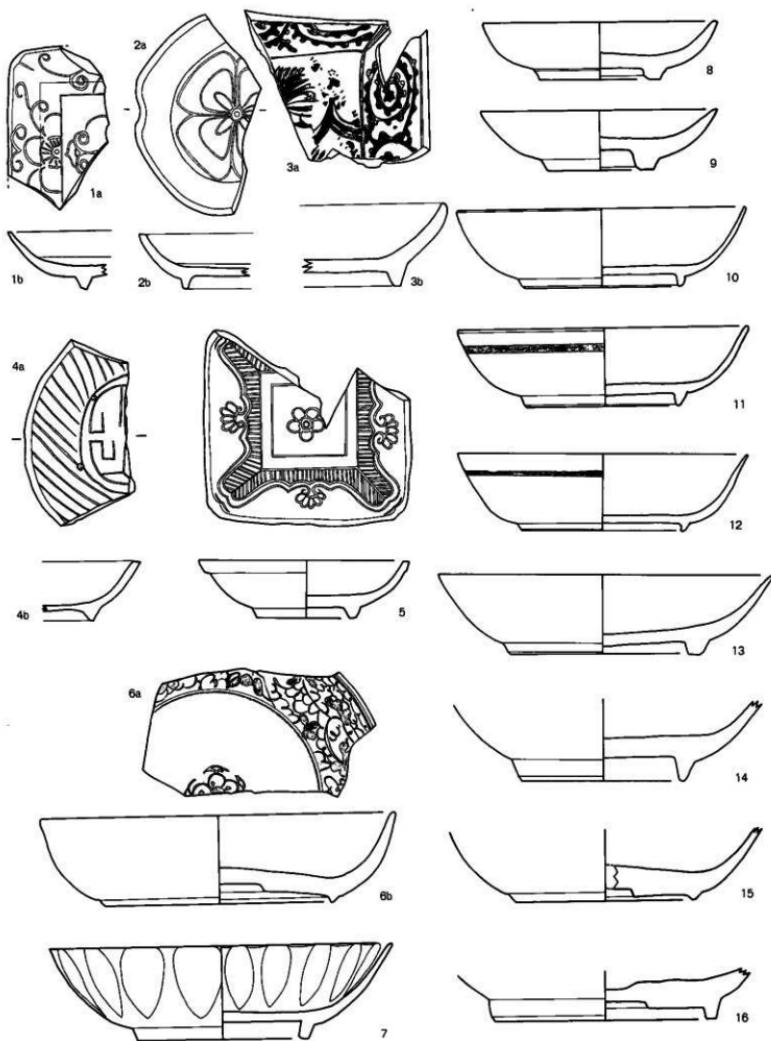
第36図版 工房址より出土した笹文玉縁皿実測図



- |          |        |          |        |
|----------|--------|----------|--------|
| 1. 笹文玉縁皿 | D-6区出土 | 5. 笹文玉縁皿 | A-6区出土 |
| 2. "     | A-6区出土 | 6.       | "      |
| 3.       | B-6区出土 | 7.       | "      |
| 4.       | A-6区出土 |          |        |

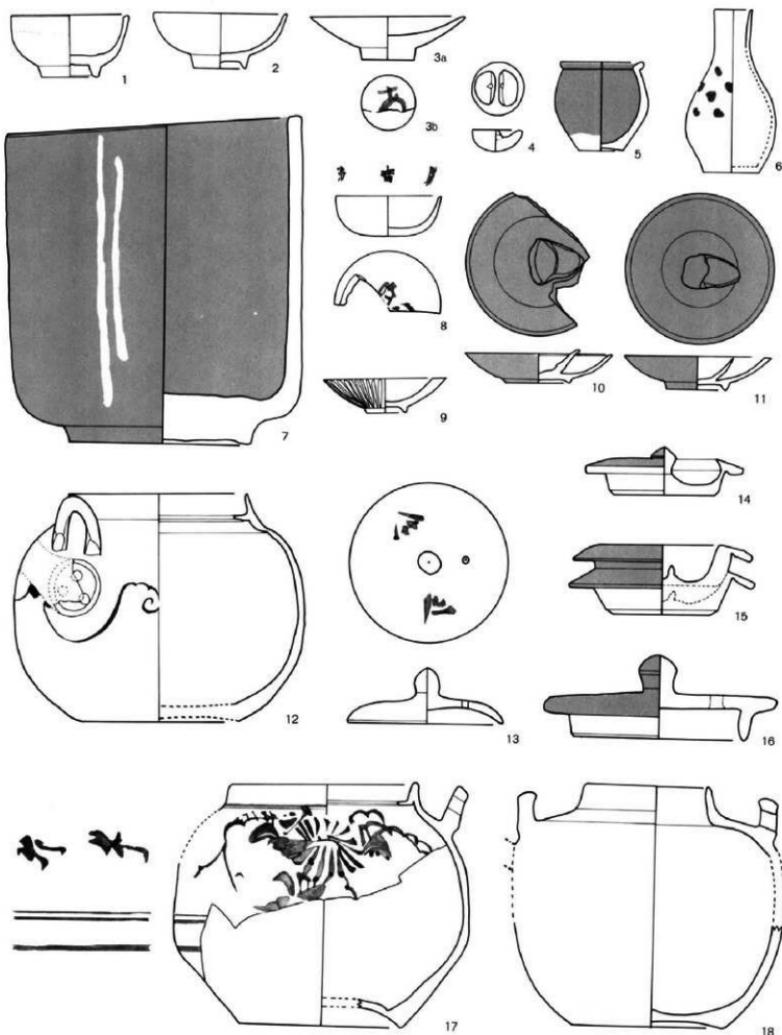
SCALE 2:3

第37図版 工房址およびその付近より出土した皿類各種実測図



- |              |        |            |        |
|--------------|--------|------------|--------|
| 1. 手塙皿破片     | A-3区出土 | 9. 丸皿      | C-3区出土 |
| 2. 木瓜文手塙皿破片  | 工房付近出土 | 10. 丸皿(無袖) | D-4区出土 |
| 3. 姉唐草文長皿破片  | A-1区出土 | 11. 丸皿(無袖) | D-6区出土 |
| 4. 「仙山」名の手塙皿 | C-3区出土 | 12. 丸皿(無袖) | A-5区出土 |
| 5. 花文の手塙皿    | D-3区出土 | 13. 丸皿     | D-4区出土 |
| 6. 唐草文丸皿     | D-3区出土 | 14. 丸皿     | D-4区出土 |
| 7. 輪花丸皿      | 工房付近出土 | 15. 丸皿     | B-6区出土 |
| 8. 丸皿        | D-4区出土 | 16. 輪花丸皿   | D-4区出土 |

第38図版 工房址およびその付近より出土した土瓶その他実測図



1. 白磁蓋

2. "

3. "

4. 白磁ボタン

5. 鉄釉豆甕

6. 御持酒器

7. 鉄釉茶こぼし

8. 「音次郎」の名入りの香合の蓋

9. 白磁紅皿

A-1区出土

C-5区床面直上出土

A-1区出土

A-5区出土

C-6区床面直上出土

工房付近出土

A-5区出土

A-6区出土

C-4区床面直上出土

10. 鉄釉燈明皿

"

"

12. 土瓶

13. 編織文の土瓶の蓋

14. 鉄釉の土瓶の蓋

B-1区出土

B-1区出土

17. 菊花文の土瓶

A-5区出土

B-8区出土

D-4区出土

B-1区出土

B-1区出土

D-3区出土

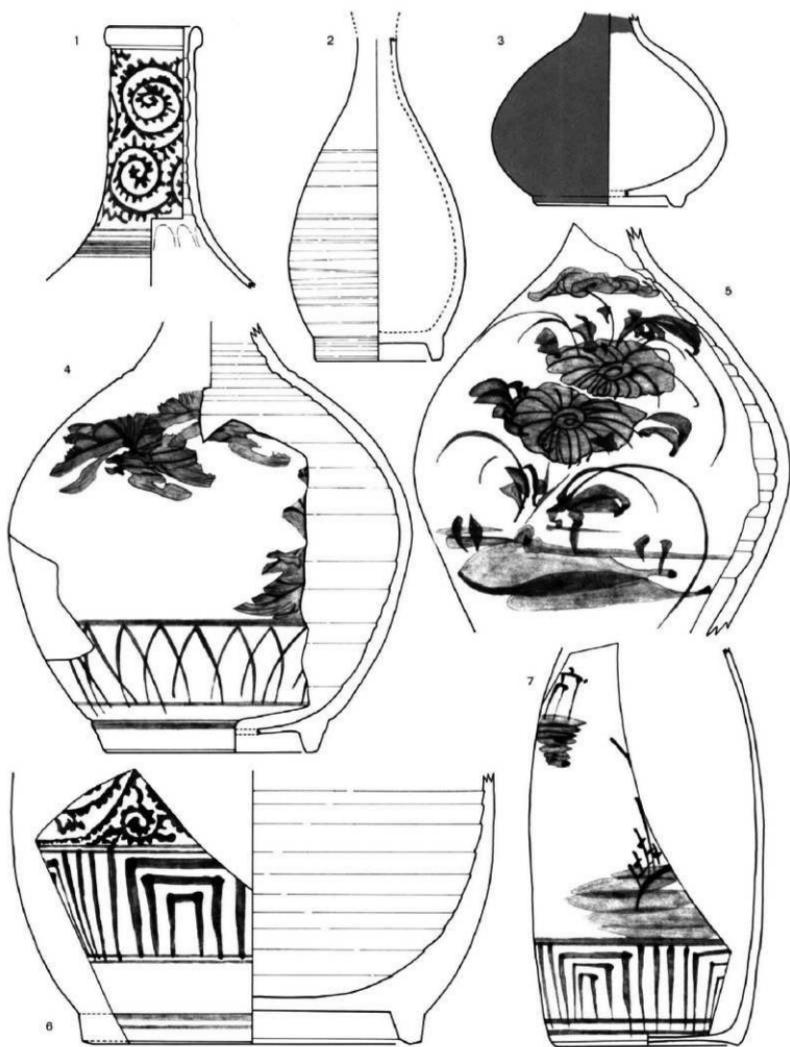
D-3区出土

F-6区出土

工房付近出土

SCALE 2:3

第39図版 工房址およびその付近より出土した壺各種実測図



1. 口縁部に菊唐草文のある徳利  
2. 御神酒徳利(素焼)  
3. 鉄輪の油壺  
4. 三階松文の徳利

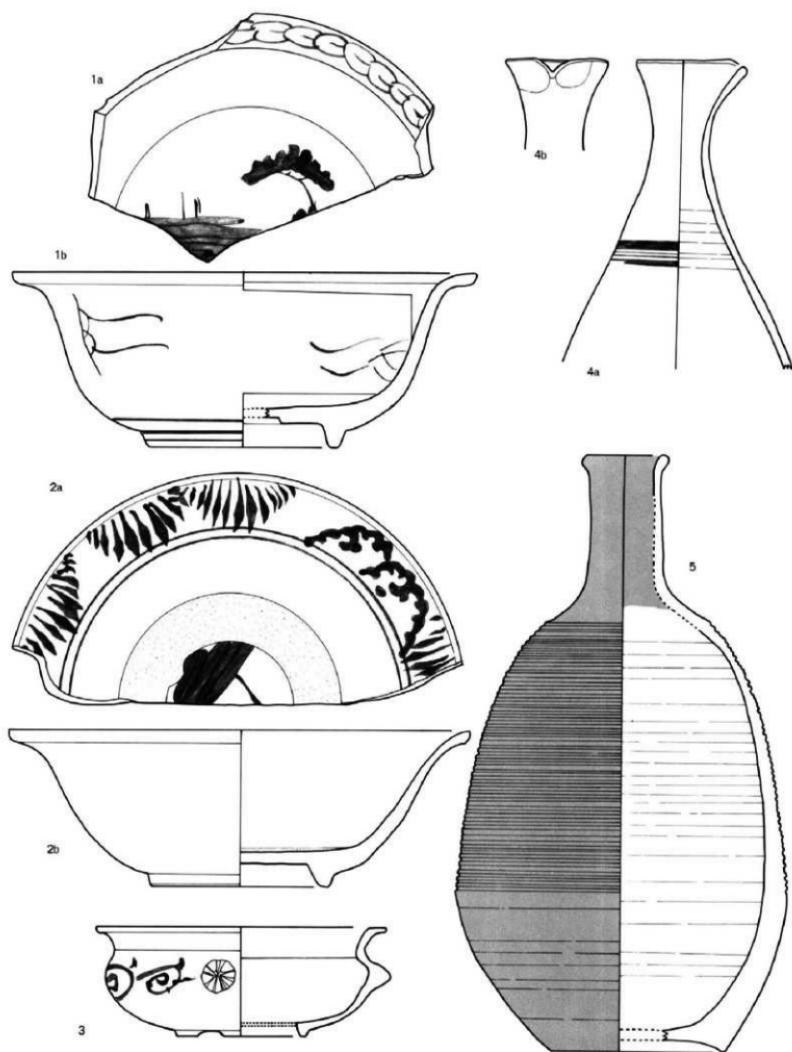
B-3区出土  
A-5区出土  
B-6区出土  
C-6区出土

5. 菊文徳利  
6. 菊唐草文らっきょう徳利  
7. 山水文の燭徳利

工房付近出土  
工房付近出土  
工房付近出土

SCALE 2 : 3

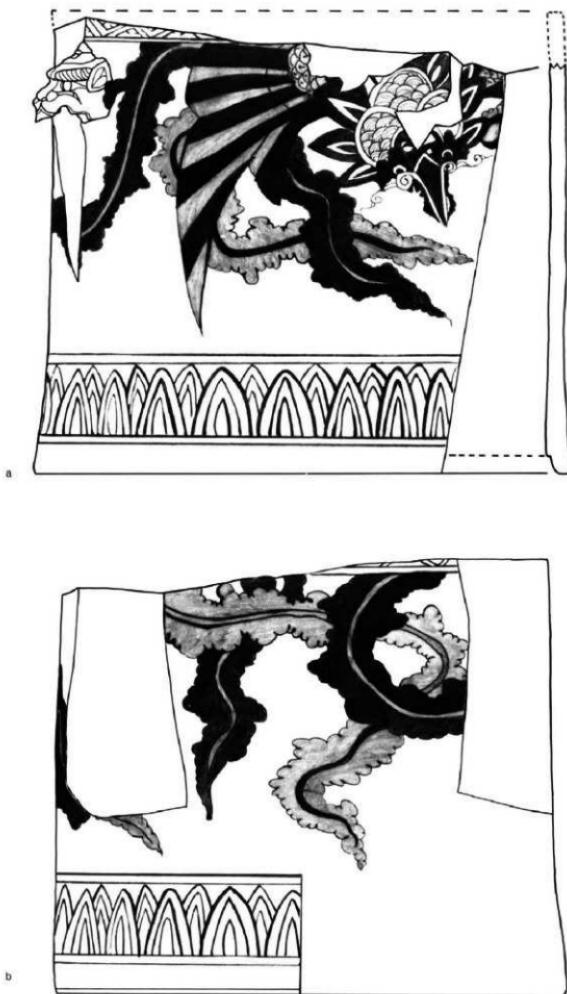
第40図版 工房址より出土した浅鉢、香炉、徳利実測図



- |            |        |
|------------|--------|
| 1.山水文浅鉢    | A-6区出土 |
| 2.見込み白帆の浅鉢 | A-5区出土 |
| 3.唐草文の香炉   | A-5区出土 |
| 4.燭徳利      | C-6区出土 |
| 5.鐵袖徳利     | A-5区出土 |

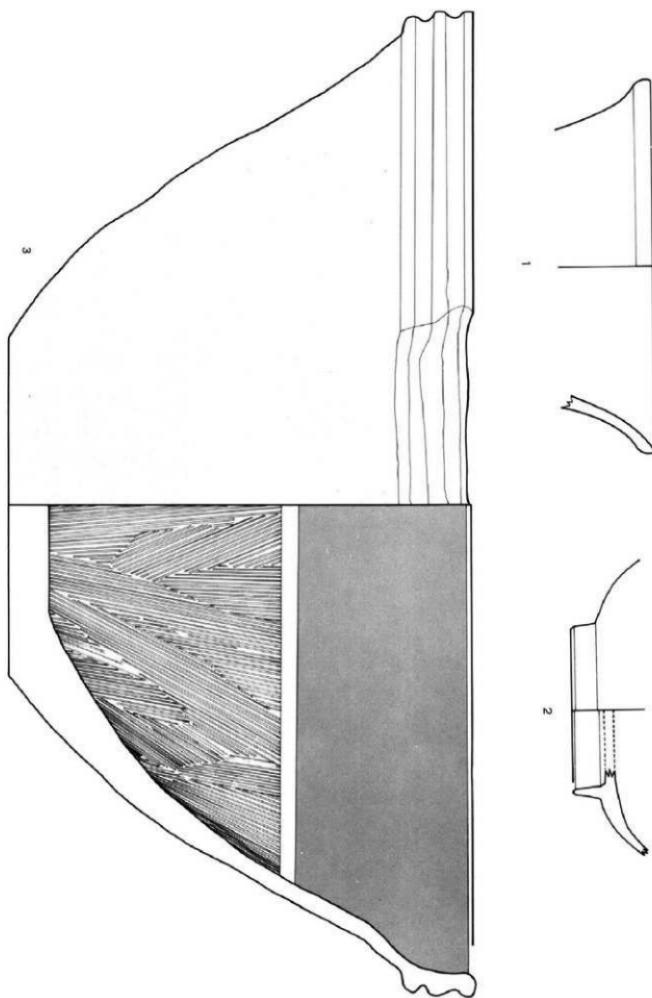
SCALE 2 : 3

第41図版 工房址より出土した火鉢実測図（A 6区出土）



SCALE 2 : 3

第42図版 工房址およびその付近より出土した三彩と摺鉢実測図



1. 三彩口辺部破片 工房付近出土  
2. 三彩底部破片 B-1区出土  
3. 鉄軸磁器大摺鉢 D-4区出土

SCALE 2 : 3

付表 1

## 白磁および吳須文様の磁器

器種	発掘区		製作法																計										
	A 手 塙 皿	b 花 型	A a 1	A 2	A 3	A 4	A 5	A 6	B b 1	B a 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	C 3	C 4	C 5	C 6	D 3	D 4	D 5	D 6	E 6	F 6	H 1	計		
角皿	手塙皿	桜花型			1		6									1	4	1		2	1							16	
	西山型		3	1	1	2	3		7							3	4	1	1		1				1	1	1	3	51
	ふくら雀型																									2(1)			
	その他型		3	1	1				2	1		1	1	1		1	1		1								13		
丸皿	長皿	組型					1																					1	
	玉縁皿	組型				4	20									1		1	1	4	3	2	4				40		
	輪花型		1		1	1	3		1							1	(1)			1	1	2					12(1)		
	小型丸皿	組型					2																					2	
茶碗	紅皿	組型			3											1	3	2	1	2	1	1	1	5	1		2(2)		
	蝙蝠口		1			4	14		2		1		7				1	(1)	17	1	2						50(1)		
	山水口		1			3	8				1	(1)	1	(1)						1	2	6	1	5	1	1	19		
	白磁口			4	1	2	2		1							3	2	1	1								20(1)		
壺	その他口		1			3	4		1		1	2	1	2		1	1			2	3	1					23		
	特殊形態手		1																									1	
	湯呑口				1	1										1	3		1	1	4	1	1				14		
	飯茶碗の蓋口					1																						1	
壺	基部有文口					1	2									1				3			1	2	(1)			8(1)	
	同無文口															1	2			1	1	1						6	
	徳利紐		1	3	1											1				1	1	2						10	
	らつきょう紐					1										1	2		2	1								7	
※ 土瓶型	口	2			1			1								5	1	1	1	3	2	1	4	1			23		
※ 浅鉢口		1			3			6								1	4		1	2	2	2	2				22		
※ 片口口																												1	
火鉢紐						1																						1	
※ 香炉型		1																										1	
※ 水滴型						1																						1	
戸車型		2			1	1										1	1		1	2	1		3	(1)			11(1)		
盃口		1			1											2		1	2	1	2	2	1	1			13		
御神酒徳利口								1								3							1					5	
ホターン?					1																							1	
※ 油壺口																1												1	
無血型						3	1									1	4	4		2		4	2	2				23	
軸茶碗口			1																									1	
指貫手?			1																1			2						4	
軸受?								1								1				1								3(1)	
削台紐																							1					1	

合計 429

## 鉄釉、瑠璃、三彩の磁器および窯道具、素焼型

付表2

器種	発掘区	製作法	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	C	C	C	D	D	D	E	F	H	計			
			b	a	1	2	3	4	5	6	b	a	1	2	3	4	5	6	3	4	5	6	1			
鉄釉皿	手塙皿型										1												1			
	燈明皿型					2					3								1		1	3	1	12		
鉄釉湯呑	口																					1		1		
※鉄釉德利	口				1				1	1	1								1	2				7		
※鉄釉土瓶	口										1								2	1				11		
鉄釉浅鉢	口																		1					4		
鉄釉片口	口										1													1		
※鉄釉香炉	型										1													1		
鉄釉甕	組										2	1						3	1	1	2	3	5	1	5	28
鉄釉豆甕	口										3								2				3	(1)	6(1)	
鉄釉油壺	口																	1							1	
鉄釉茶こぼし	口										1														1	
鉄釉擂鉢	口																2	1					3		6	
鉄釉こね鉢	口										3	1					1	1	1	2					9	
鉄釉ひんだらい	手																				1				1	
鉄釉仏飯器	口										2										1		1		4	
鉄釉砲弾	型										1							1		1					4	
※瑠璃飯茶碗	口																		1						1	
瑠璃湯呑	口										1														1	
※瑠璃德利	口				1																				1	
瑠璃土瓶	口										1								1		1				3	
※三彩湯呑	口										1	3	1			1		1	2	4	1	1	1	5	21	

## 窯道具

焼台	型	24	5	10	27	11	36	7	32	50	2	4	21	48	50	4	17	15	2	4	計125
		(5)	(6)					(1)	(1)	(1)	(1)	2	6	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	手	6			10		1			1	5					1	1		3		28
	手				1			3		2							8				14
	口	4			1		2	1	1	3						1					14
	口																				1
	手	1								1						2	1				1
	口	1			1					1						2	1				6
	口																1				1

## 素焼型

素焼型	手塙皿型		1		1		1															4	
																							369(11)
	戸車型		1						2													3	
	土瓶口型		1																				1
	水滴型									2												2	
																							計10

付表 3

## 素 焼

器 種	発 掘 区	製 作 法	A b	A a	A 1	A 2	A 3	A 4	A 5	A 6	B b	B a	B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	C 3	C 4	C 5	C 6	D 3	D 4	D 5	D 6	E 6	F 6	H 1	計
角 手 塩 盆	型						2	5								4	2			2					3	(1)			18 (1)	
皿 長 盆	型								1								1	1							1					4
丸 盆	玉 緑 盆	型			2		3	14	2							3	9	10			8	1	9	17					78	
	輪 花 盆	型																							3				3	
	燈 明 盆	型							1																				1	
茶 飯 茶 色 盆	碗	口							6	1			1			8	10		1	4 (1)	5	6	1	1				44 (1)		
	湯 香 口								5			1					2	1											9	
茶 碗 の 蓋	口																1							2					3	
	煙 德 利 口						1	2								1	3		1					1					9	
煮 德 利 紐								1	1							1			1	3	1								8	
土 瓶	口							2								1	1			1	1								6	
浅 鉢	口		2					2	1							2	6					5	3					21		
火 鉢	紐																						1						1	
盃	口								2								3		1					2					8	
甕	紐						1	2												1								4		
仏 飯 器	口																					1	2						3	
供 鉢	紐								2								2			2	2								8	
こ ね 鉢	紐							1	1	3	4						1	1			9	1						21		

計246

注 (1) ※以外は底部数をもって個体数とした。※は破片で認識できる個体数を算出した。

(2) ( )数値は、工房床面直上の個体数を示し、それは全体の個体数に含まれている。

(3) 製作法における記載は以下の事を示す。

型づくり……………型

ロクロ水びき……………口

ロクロ粘土紐……………紐

手づくり……………手

RECORDS OF ARCHAEOLOGICAL MATERIAL  
SEPARATE VOLUME

1

THE PORCELAIN WORKSHOP SITE ATTACHED TO THE NISHIYAMA KILN  
EXCAVATED AT KIRIGOME, MIYAZAKI-CHO, KAMI-GUN, MIYAGI PREFECTURE, JAPAN

# KIRIGOME

EDITED BY PROF. C. SERIZAWA

1978



DEPARTMENT OF ARCHAEOLOGY, FACULTY OF ARTS AND LETTERS  
TOHOKU UNIVERSITY, SENDAI, JAPAN

RECORDS OF ARCHAEOLOGICAL MATERIAL  
SEPARATE VOLUME

1

THE PORCELAIN WORKSHOP SITE ATTACHED TO THE NISHIYAMA KILN  
EXCAVATED AT KIRIGOME, MIYAZAKI-CHO, KAMI-GUN, MIYAGI PREFECTURE, JAPAN

# KIRIGOME

EDITED BY PROF. C. SERIZAWA

1978



DEPARTMENT OF ARCHAEOLOGY, FACULTY OF ARTS AND LETTERS  
TOHOKU UNIVERSITY, SENDAI, JAPAN